



# 教育支援センターだより

3月号 令和7年度 第12号

令和8年 3月18日発行(通算192号)

## 鴻巣市立教育支援センター

〒369-0133 鴻巣市小谷1890番地1

TEL 048-569-3181

FAX 048-569-1773

花かおり  
緑あふれ  
人輝くまち  
こうのす



- 教育相談事業
- 適応指導教室事業
- 特別支援教育事業
- 研修事業

### 指導主事1年目を振り返って

指導主事 江藤 大輔



指導主事としての1年目が間もなく終わります。この節目に改めて1年間の歩みを振り返ると、多くの学びと気づきに満ちた時間であったと実感しております。日々、教育支援センターを訪れる保護者や子どもたちの表情や言葉に触れながら、教育支援センターが果たすべき役割の大きさを感じるとともに、一人一人に寄り添うことの大切さを改めて考える1年となりました。また、保護者の方々からいただく言葉や相談を通して、子どもを支えたいという深い願いに触れ、その思いに応える責任の重さを強く感じる1年となりました。

令和7年8月1日、教育支援センターは、川里ふるさと館から旧小谷小学校へ移転しました。新しい教育支援センターは、これまで以上に安心して相談のできる環境を整えるとともに、子どもたちが自分のペースで学びや活動に向かえるよう配慮された空間となっています。学習スペースや相談室、活動スペースの拡充により、より柔軟に多様なニーズへ対応できるようになりました。移転後、子どもたちが落ち着いた表情で過ごしている姿や、保護者の皆さまが以前より気軽に相談に訪れてくださる様子を目にするたびに、新しい環境がもたらした変化を実感しています。

この1年で、特に印象的だったのは、子どもたち一人一人が抱える思いの深さです。不安や緊張を抱えながら教育支援センターに足を運んだ子どもたちが、少しずつ自分の言葉で気持ちを伝え、前を向こうとする姿には何度も心を動かされました。私自身、支援とは押しつけるものではなく、寄り添いながらともに歩む姿勢が大切であるということを改めて学びました。保護者の方々から寄せられる『子どもにどう関わればいいのか』『これでいいのだろうか』という悩みには、子どもを思う切実な願いが込められています。その一つ一つに丁寧に向き合い、ともに考え続けることが、教育支援センターとしての重要な役割であると強く感じています。

教育支援センターは、子ども・保護者・学校・地域のつながりを支える拠点です。これまでの1年間で見てきた課題や改善点を踏まえ、今後もより良い支援を目指して取り組んでまいります。子どもたちが安心して自分らしく過ごせる場所であるために、保護者の方々気軽に相談できる場であるために、そして地域に開かれた存在であるために、引き続き努力を重ねてまいります。どうぞ、今後とも温かいご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。



あの日を忘れない

## 防災訓練

R8 2/17(火)



今年は、未曾有の被害をもたらした東日本大震災から15年目となります。教育支援センターでは、「3.11」を前にして震度5弱の地震とそれに伴う火災発生を想定した通報・避難訓練を実施しました。

内容は、館内非常放送から119番通報、初期消火、避難誘導、救護者確認という一連の緊急行動。訓練に参加したLet's教室に通級する子どもたちは、「おかしも」の原則を守り真剣に取り組んでいました。



### 2月の相談状況 389件

相談内訳	R8. 2月	R8. 1月
相談員等の学校等への訪問	142	85
相談者来所	138	110
電話	109	91

#### 主な相談者別内訳

小・中教職員	79	64
小学生保護者	63	66
年長児保護者	59	20
小学生	41	57
未就学児	35	19

#### 主な相談内容

不登校	142	69
就学	81	26
特別支援	58	66
5歳児健診	36	35

### 3・4月の行事予定

月	日	曜	行事
3	2	月	Let's教室 卒業を祝う会
	3	火	二胡演奏体験
			鴻巣市不登校対策チーム会議
	6	金	特別支援教育冬季研修会 15:00
	10	火	ウイング・ステップ担当者研修会 15:00
12	木	まなびの教室 14:00	
4	17	火	Let's教室 3学期終業式・保護者会
	8	水	小中学校 始業式・入学式
	15	水	Let's教室 1学期開始
	22	水	特別支援学級担任等のための研修会
	23	木	第1回まなびの教室 14:00

※予定は、都合により変更になる場合があります。



今年度は、小学校6人、中学校7人の児童生徒が通級しました(見学・体験、仮通級を除く)。



## シリーズ

### 0歳～15歳までの一貫した教育の推進 教室訪問のまとめ

対象	小学校	中学校	訪問回数
新採用	2	6	16
若手	2年次	8	23
	3年次	1	9
臨時的 任期付	1年目	11	35
	2年目	0	6
学校からの要請	5	0	10
合計	47人	26人	99回

#### 【主な成果】

- 年度当初の学校訪問では、管理職の教職員育成への課題等も伺いながら、各学校の現状が理解できた。
- 授業参観の前に、管理職に日頃の様子を伺ったので、長所を伸ばし課題を克服するアドバイスなども短時間の訪問の中で加えることができ、若手教員の資質向上の一助となったと思われる。
- 日程調整・指導案提出など、滞ることが少なくなった。対象教員の研修意欲、指導・助言の受け止め方なども、学校間・担当者間での温度差が縮まった。
- 2回目の訪問では、指導力の向上が見られた。本人の努力はもちろん、各校管理職や指導教員だけでなく先輩・同僚からの温かい支援が力になっている。
- 学校からの要請による訪問が例年より多く、同じ教員について複数回にわたる訪問を要請する学校もあった。今後とも個々のライフステージに応じた資質向上を図れるよう、実態に応じた支援方法をリクエストしていただきたい。

